

会議議事録

会議名	令和 6 年度 学校関係者評価委員会
開催日時	令和 6 年 7 月 12 日 金曜日 18 : 30～19 : 45 (1 時間 15 分)
場所	マロニエ医療福祉専門学校 3 号館 視聴覚室
出席者 (敬称略)	①評価委員 須藤 智宏 (医療法人心救会 小山富士見台病院) 渡邊 芳江 (公益社団法人 栃木県看護協会 常任理事) 小島 里那 (大澤歯科医院) 荒井 紀子 (MO 後援会 会長) (計 4 名) ②学校教職員 羽山 潔、(マロニエ 校長)、岩瀬明雄 (小山歯科 校長)、 宮内 修 (司会、マロニエ／小山歯科 統括部長)、 矢口 剛 (マロニエ 統括部長)、岡田 岳 (作業療法学科長)、 向山弘一 (理学療法学科長)、栗田礼子 (歯科衛生学科長)、 小林秀子 (学生サポートセンター長／管理部長)、半田享 (広報部長)、 小林享嗣 (学校評価事務局、学生サポートセンター) (計 10 名)
配布資料	・ 令和 6 年度 学校関係者評価委員 次第 (事前配布) ・ 令和 5 年度自己点検・自己評価結果 (事前配布)
進行 議題内容 各詳細は 別紙の通り	1. 開会 (挨拶、配布資料確認) 開会が宣言された後、配布資料の確認を行った。 2. 出席者紹介 (評価委員、学校教職員) 各出席者の自己紹介が行われた。 3. 校長挨拶 岩瀬校長より開会の挨拶が行われた。 4. 学校関係者評価の進め方説明 本会の進め方の説明が行われた。報告書は事前配布のため、その場での読み上げは行わず、内容に対する質疑応答を行う旨が伝えられた。 5. 自己評価結果に対する改善と現状報告 質疑応答及び補足説明 報告に対する質疑応答及び補足説明が以下の順に進められた。(別紙 1) 委員による下記以外のその他意見等は、別途「学校関係者評価報告書」に記載する。 1. 評価 (看護通信) について 2. 指導力向上について 3. 合格率について

- | | |
|--|--|
| | <ul style="list-style-type: none">4. 退学率について5. サークルについて6. 学生募集活動について7. 資料請求について8. ボランティアについて |
|--|--|

6. 意見交換と学校関係者評価の総評

羽山校長より総評が伝えられた。

—閉会—

議事記録者：小林享

5. 自己評価結果に対する改善と現状報告 質疑応答及び補足説明

1. 評価（看護通信）について

【委員からの意見】

＜看護通信＞7. について評価の根拠のとおり、今後どのように評価し取り入れていくのか？意見をどのように数値化し、反映しようとしているのか、イメージがあれば教えてください。（日原）

看護学科通信課程において授業評価体制を取り入れにくいことは理解するところですが、授業評価体制の整備（数値化）が難しい背景を教えてください。（渡邊）

【回答・補足説明】（宮内）

全日制においては、科目ごとに授業アンケートという 10 個の質問に対し、1～5 の点数を選択することを授業評価の一部として行っている。授業形態の違いから、看護学科通信課程においてはその授業アンケートは採用していない。

看護学科通信課程では、個別面談や Line による相談を随時行っている。その中で授業に対する様々な意見を収集し、それを教務会議で共有すると同時に評価し改善に向けた対応をしている。しかし、数値化していないことから外部に対し客観性の乏しいものとなっているため、授業アンケートを作成する方向で検討を始めた。作成に際し、看護学科通信課程では、対面による授業は極めて少ないが、オリジナルの教材を多数作成し提供していることから、それらに則した授業アンケートを現在検討中である。

2. 指導力向上について

【委員からの意見】

指導力を上げるために積極的に研修や講習に参加しているようであるが評価は低い。どのような部分が「不足」と感じ、どう改善しようとしているか？単に外部の研修に参加だと、今も実施しているので、改善できないと感ずるので、その部分のイメージがあれば教えてください。（日原）

【回答・補足説明】（各学科）

理学療法学科（向山）より

指導力の判断には「主観」と「客観」評価からくる「実感」が必要であると考え。場合によっては自身を過少評価しているかもしれない。この実感をどのように得るのかの方法論が今までは曖昧だったが、アカデミックキャリアラダーの取り組みが今年度から始まったことで、適切な評価やプリセプター、メンターの存在ができることにより、実感を得やすい環境へ移行することで、より適切な判断ができると思われる。

作業療法学科（岡田）より

作業療法学科の意見としては理学療法学科の意見と同意見である。
加えて作業療法学科では4年前より新任教員の教育力向上のための独自の育成の仕組みを作り実施し

ている。(1年目先輩教員の授業参加、2年目新任教員の授業に先輩教員が参加してフィードバックをする。3年目独り立ち)

また、学生対応力も同様に学生の同意が取れた場合同席して対応の方法を学ぶ機会を設け、チューター制を作り新任教員と先輩教員で2学年をサポートする体制をとって対応している。(1年主担当が2年の副担当をする)

看護学科(今井)より

看護学科はほぼ適切3と評価している。研修の機会は説明した通りだが、令和6年度学内のアカデミックキャリアラダーが始まる。教員のキャリアに応じた研修のため、より個別の能力開発がされる。さらにZ世代の学生状況に応じた指導力が培われていくと考えている。

歯科衛生学科(栗田)より

学力向上のための指導力に関しては、勉強に対する意欲を引き出せず、伸び悩んでいるときに指導力の足りなさを痛感している。学生対応の指導力に関しても学生の行動に変容がみられないときに「不足」を感じる。研修を積んだ者から、新しい事を取り入れ、「今までは・・・」という考えにあまり左右されないようにしている。ミーティングを頻繁に行い、これまでの「失敗」を共有し、同じことを繰り返さないようにする事と、計画を立て、実施していることであっても、途中で軌道修正は早めに行うことでダメージを少なくするようにしている。

アカデミックキャリアラダーで始まるプリセプター制度により、力を得ることができると考えている。

3. 合格率について

【委員からの意見】

国家試験合格率の数値目標を設定する際に、何を根拠として設定されているのかを教えていただきたい。(渡邊)

【回答・補足説明】(宮内)

すべての学科が合格率100%を目指して取り組んでいる。目標とする合格率は、結果として出た合格率がそれを満たしているかを設定しているものである。その設定については、全国平均の直近3ヵ年の平均としている。たとえば、今年度(令和6年度)の目標値は、令和3年度～令和5年度の平均(新卒)となる。これは平均を超えることで得られる評価が普通以上であることによる専門学校(ライセンス校)としての信頼性を担保するものと考えている。

4. 退学率について

【委員からの意見】

取り組みについては年々良くなっている印象を受けるが、退学率が上下していて結果に結びついているとは言えないような評価になってしまう。学校評価の考え方としてこの項目はどのような成果を期待しているのか？を教えていただきたい。^{※1}

退学の理由も工夫で解決できるものと、学校側ではどうにもならないものがあると思うので、その点を

どのように把握・分析し、取り組みに結び付けているか教えてください。※2（日原）

【※1の回答・補足説明】（矢口）

ご指摘のように、各学科ともに様々な努力や工夫を重ねることで取り組みは良くなっていると思われる。そのことだけを見れば評価として4が続くと考えられる。ただ、実際の退学率が目標値（年度の初めに各学科の現定員維持を獲得するように設定される）よりも高くなってしまうということは、あくまで結果として経営的な側面ではマイナスに働いていることになる。取り組みだけでは客観的要素が乏しいため経営的側面も考慮した退学率という形の結果で考えている。

項目名が「退学者低減への取り組みが図られているか」であれば「学修成果」にふさわしいと考えられるし、取り組みとして評価できる。しかし、あくまで文部科学省の設定に従っている「退学率」となると、上記内容も含むし「やむを得ない退学」も含まれてしまう。悩ましいところであるが、少しでも退学者を減らすための動機付けとしたい。

【※2の回答・補足説明】（各学科）

理学療法学科（向山）より

退学に至る原因はその修業年によって内容に偏りがあり、学年毎の対策が必要である。加えて連鎖反応的に退学の機運が直接もしくは間接的に高まることがある。ビジョンの「楽しく学びつながる学校」は、ドロップアウトの種となりうる「学校がつまらない」という感情への対応である。学生にとって学校生活の特別なエクスペリエンスは、学校とのつながりを強固にしてくれる可能性を持っている。これらは退学の気運への抑制になると考えている。

作業療法学科（岡田）より

作業療法学科では、ドロップアウトの可能性を早期にキャッチするために、学校生活において不安が好発する時期に個別の面談を実施している（年6回：前期；4月下旬から5月初旬、6月、7月下旬から8月 後期；9月下旬から10月初旬、11月中旬から下旬、1月下旬から2月初旬）その他、学年問わず教員が学生の変化に気がついた時点で学年担当に報告、早期に学年担当が個別対応をする形で対応している。ただ、作業療法士の特性でもある（精神保健領域や発達障害領域で働く作業療法士がいることもあり）が、メンタル面や発達面に課題を持つ学生がそもそも入学してくることが多いこともあり入学時より全教員周知し対応している現状である。作業療法学科の退学理由：1、体調不調（メンタル面）2、学力不振 3、学校生活不適応 4、経済的 となっている。退学に陥る背景として学生がさまざまな不安を持つことが過去の分析から明らかになっており、各学年その不安をどのようにサポートしていくかを検討し特に専門領域ではない教員に教育していくのが今後の課題だと考えている。

看護学科（今井）より

退学の理由として「1. 学力不足による単位未修得」「2. メンタル不調による学業継続困難」「3. 経済的困難」が大きな理由である。

1. 学力不足には教員からの学習方法のアドバイスと確認、不明なところの説明、定期的な面接、放課後学習の勧めなど行い、学習習慣ができるようにしている。
2. メンタル不調は欠席が多くなってくるので、欠席時の聞き取り、随時・定期的な面接、カウンセリング、病院受診、休学などを勧めて継続できるようにしている。

3. 経済的困難には学費の分割、学生支援機構、県、病院の奨学金などを勧め、継続できるように対処している。

歯科衛生学科（栗田）より

退学の理由は様々であるため、面談を重ねている。最終学年になってからの退学は他の学生にも影響が大きいの、そこに至らないよう、モチベーションアップに努めているが、家庭の事情や、経済的な理由での退学は致し方ない部分もあり、止めることができなかった。今後は、面談時に経済的な事も心配していることも伝え、行動を注視していこうと考えている。

5. サークルについて

【委員からの意見】

課外活動について伺います。

私が在学中、いくつかのサークルがありましたが、現在は活動されていますか？

学生が主体となって行うサークル活動は、自主性や協調性、創造力を養う場として有用かと思いますが、現在はニーズが低いのでしょうか？（須藤）

【回答・補足説明】（矢口）

ここ数年のサークル活動は皆無に等しかった。ただ今年度はいくつかのサークルが立ち上がり活動を開始している。

須藤委員がおっしゃる通りサークル活動を通して、自主性や協調性といった社会性が獲得されると思うが、その活動は以前よりも低調である。ニーズが低いというか、前に出ることの抵抗感があるのではないかと考える。また、経済的理由で放課後の時間をアルバイトにあてる学生も多く、様々な活動に参加することが物理的に難しいことも考えられる。

6. 学生募集活動について

【委員からの意見】

Q2 はなぜこのように評価が低いのでしょうか？ホームページ等も見やすい印象で、各申し込みもしやすかったのだ。（日原）

【回答・補足説明】（半田）

オープンキャンパスの参加者数が看護学科を除くすべての学科で前年度を上回っており、看護学科についても前年度からわずかな減少に止まっている状況である中、実際のオープンキャンパスからの出願数は看護学科、理学療法学科、作業療法学科の3学科が前年度を下回ってしまい、結果として効果的な学生募集活動ができていなかったという判断から2という評価をつけた次第である。

その状態の改善方法としては、自己評価の31ページに改善方策等として記載したとおりであるが、特に看護学科では、サイボウズというソフトウェアを利用して、教職員全員でオープンキャンパスに関する情報共有を行うことで、より良いオープンキャンパスに向け改善を図っている。

また、各学科教員の協力の下で実施している出前授業の効果であるのか定かではないが、令和6年度のオープンキャンパスは、5月・6月・7月ともに前年度を上回る参加をいただいている。

→子供が入学を検討していた際に他保護者から「マロニエは難しくて多分落ちてしまうから、他の学校を受験する。」「マロニエは他校と比べて学費が高い。」と噂程度の話聞いたことがあった。マイナスイメージの噂話が独り歩きしているのは良くないと思いますので、そのあたりを払拭できるようなアピールができると、より間口が広がるのかなと思います。(荒井)

→難しいと感じられてしまう背景として、ひとつはAO入試が考えられます。一般的にAO入試は比較的難易度が低いと認識されているが、出願数が多くなってしまうと、定員や他入試の都合上、不合格となってしまう出願者もでてくる。オープンキャンパスや説明会等ではたとえAO入試であっても不合格となってしまうことがあるということは説明を行っている。ただし、不合格となってしまった場合でも、他日程での再受験が可能で、それで合格している人もいますと案内を行っている。

また、難しいと感じている生徒さんをどうやって受験まで繋げられるかは課題である。

学費に関しては、学費自体は他校と比べても大きくは変わらないが、その他教材費等の諸経費も計上しているため、表示額だけで見ると他校よりも高額に感じられてしまうかもしれない。

しかし、入学していただいた後に実際に必要となる費用も事前にお知らせしているので、そのあたりのギャップは他校と比べてかなり少ないと考える。

それらの事情がうまくお伝えできていないということなので、今後の課題とさせていただく。(矢口)

7. 資料請求について

【委員からの意見】

資料請求をしたところ、届くまでの期間が長かったように感じました。(実体験です。)(川村)

【回答・補足説明】(半田)

本校のホームページから請求をいただいた場合、申し込み後、1週間程度でお手元に到着するように処理をしているが、長期学校休業中に請求をいただいたような場合であると、お待たせしてしまう状況になっている。

また、4月にご請求をいただいた場合は、その時点ではまだ新年度のパンフレットが完成しておらず、5月上旬のパンフレット完成後の発送となり、念のため、ホームページでもお待たせしてしまう旨の周知はしているが、請求の時期によっては1ヵ月以上もお待たせしてしまう状況になっていた。

次年度からはお待たせすることのないように、また、より効果的な学生募集活動ができるように3月末までには新年度のパンフレットを完成させ、4月1日からは新パンフレットを配布できるようなスケジュールにすることを計画している。

8. ボランティアについて

【委員からの意見】

ボランティア求人依頼はどのような手順で行えばよろしいのでしょうか？

地域のニーズ・課題に対して、各学科の立場で経験できることは大変貴重です。

コロナ前の水準に戻るよう希望いたします。(須藤)

災害時にも活躍できる医療人になれるように、学生のうちからボランティア活動に携われる機会を与えてほしいと思います。(川村)

【回答・補足説明】(小林秀)

学校長宛に依頼書(支援の名称、日時、場所、活動内容、条件等)の提出をお願いしている。
受理後、担当部署にて学生へ周知・募集をして取りまとめ、調整させていただいている。

昨年度までは、学科指定のボランティア以外は、ボランティア活動を授業の一環として単位認定している介護福祉学科において、実習先をはじめとした地域からの依頼を取りまとめていた。今後は、活動推進のための窓口を設置し、活動の実績を把握するとともに活動状況等の情報共有に努めていく。

残念ながらコロナ禍になってからボランティアの依頼数は減少したままであるが、今年度は栃木県障がい者スポーツ大会などいくつかのボランティア活動に参加することができた。法人としては活動を通して様々な学びを得ることができ、大きな教育効果を持つことができるボランティア活動を積極的に推進しているので、今後も引き続きボランティア活動に携われる機会を設けられるよう努めたいと考えている。

→今年度実施のボランティア活動は、ボランティアサークルとは別の枠組みの活動なんですか。

また、ボランティアサークルに依頼を行う場合にはどうしたらよいのでしょうか。(須藤)

→サークルとしても参加しているが、その他学生や教職員も参加している。外部からのボランティア依頼については、今後どのような手順で確認・周知を行うかを直近の会議にかける予定である。

ご依頼から参加までのシステムを構築して、外部と窓口の連携を取りながらボランティア活動を行っていければ良いと考えている。(矢口)